

トピックス

ノギスとインプラント，彫刻刀とCAD/CAM

診療科学講座 影山勝保

実は私，今年（平成17年3月）から毎月“眠らない町—新宿”に通いつめています。とは言っても遊びではありません。POIインプラント研修会に参加させていただいているのです。研修内容はフィクスチャーの種類—ゲノムサイエンスまでと多岐に渡っており，ライブオペ・歯周外科実習＆「サージカルステント」の宿題もお土産にと。インプラント初心者の私にとっては充実しすぎる程の内容で，研修後の頭デッカチな夜は“眠れない町—新宿”って感じなのです。

そんなわけで，ここ最近のインプラント事情を知るべく，ICOI・AOIA・GOIAの3つの国際インプラント学会に出席してきました。ありがたい事に，どの学会も今年は日本開催との事で，やはりアジアなら日本がインプラント大国！と思いきや，韓国や台湾・中国の講師陣の活躍には目を見張るものがありました。特にマイクロインプラントは韓国において，テンポラリーインプラントや矯正の分野において一般的に導入され，免荷治療期間中も審美的に早期回復される様，システムティックな活用がなされているのには驚きました。

もうひとつ最近，研究に参加させていただいているのが，Decsy—CAD/CAMシステムです。日産自動車において車両の衝突時シミュレーションなどにも活用されているものですが，過去に日産シルビア（S13）を廃車にした私にとっては，なにかの縁を感じざるを得ませんでした。

さて，私は大学院時代も含めて8年間，解剖学講座にて伊藤教授のもと勉強させていただきました。「臨床に即した解剖学的研究」のテーマのもと，インプラントに関連する顎骨の形態学的研究において，日々“ノギス”を使用して計測を行いました。計測中はかなり単調な作業でした。しかしながら，データを年代別や部位別に統計処理していくと，ただの数字の羅列であったものが，グラフィカルに推移していく瞬間がたまらなく好き

でした。ここに示しました図は，有歯顎の経年的変化と無歯顎に至った時，顎骨はどこまで骨吸収するのかを調べた結果です。顎骨が吸収していくのを数値的に計測していた私にとって，ライブオペにおける「骨補填材+PRP+TRメンブレンによるGBRテクニック」は，驚嘆に値するのです。また，口腔解剖学実習では“彫刻刀”を用いて歯冠彫刻を指導していました。あのころは，学生に熱血指導してもテストになると焦って怪我をし，血だらけで上顎犬歯を“マカ不思議なキノコ状”に彫刻する姿には，涙を禁じえませんでした。

長々と書いてきましたがタイトルに戻るとして…

“ノギスを用いて研究をしていた顎骨にインプラントし，彫刻刀を用いて歯冠彫刻をしていた作業をCAD/CAMがおこなう”

ほぼ同時期に2つのテーマを与えていただいたのみならず，解剖学的な事と臨床的な事が互いに関連しあってきたことが感慨深くてなりません。しかも数年前からは，インプラントアバットメントもCAD/CAMにおいて製作できる時代になりました。どこまで自動化されるのか，車の自動安全走行とともに興味は尽きませんが，自らの技術向上を踏まえ確実なるオペレーティングができる様，研鑽を積みたいと思う今日この頃であります。

